

第36回一志会例会 レポート 平成28年10月19日



ゲスト 木村 政雄 氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、10月19日に第36回例会を開催しました。

今回は、木村政雄氏事務所、フリープロデューサーの木村政雄氏をゲストにお迎えして、「個と経営一人と組織の賞味期限」と題した講話をいただきました。木村氏は、同志社大学文学部社会学科新聞学専攻卒業後、1969年吉本興業株式会社に入社され、

横山やすし・西川きよしのマネージャーを務めた後、漫才ブームのなか東京事務所を開設。大阪本社復帰後は、名古屋、札幌、福岡、岡山に事務所を開設するなど、吉本興業の全国展開を図られました。2002年常務取締役大阪本社代表を最後に退社され、以降「有名塾」塾長などを務めた後、大人の為のフリーマガジン「ファイブエル」を創刊、編集長を務め、実部数十万部を超える媒体に育てられました。チャレンジ精神一杯で、自分の名前で仕事をしている一柳も一目置く好人物です。

木村氏は、冒頭において、吉本興業の「やすしきよし」のマネージャー時代、東京事務所の起ち上げや吉本新喜劇立て直しの時期など、それぞれのご経験での秘話をちりばめながらユーモアに富んだ語り口でお話し頂きました。人間や組織には「賞味期限」があり、それを延ばすための秘訣について、ご自身の経験や島田伸介さん、西川きよしさん等のエピソードを交えながらお話し頂きました。

次に、「常識」に捉われることの問題について、国によっての虹の色数の違いを例えにお話され、「常識」とは、99.9%の思い込みでその思い込みを更新していくことが重要で、「常識」は変えることができると述べられました。

最後に現在は、「量的拡大」から「質的発展」へと社会のニーズが変化しており、今までのカテゴリーで成り立たず、異なる分野の相手と協働し、枠をはみ出して「同質性」の呪縛を解き、流動的に対応する力が求められると説かれました。その様な人材を育成するためには忠誠心・ロイヤリティを高めるのではなく、双方向・コミュニケーション力を高めること、そのようなシステムの構築が必要ではないかと締め括られました。

卓話では、木村氏のそれぞれのご経験の秘話をちりばめたユーモアに富んだ語り口と賞味期限の存在と、その賞味期限を延ばす方法について熱く語っていただくことで、皆引き込まれていきました。参加された会員は、「流動性のないシステムは腐っていくというお話を聞いて、自分の組織に対する危機感を強く感じた」、「人や組織だけでなく常識にすら賞味期限があることに気づかされた」等の意見が聞かれました。



木村氏 卓話風景



三井住友銀行 石井氏 事業紹介風景

続いて、会員の事業紹介コーナーで、三井住友銀行の石井常務執行役員から、「SMFGのベンチャー企業支援の取り組み」と題し、IPO市場やM&A市場の日米比較を始めとしたベンチャー業界の現状や三井住友フィナンシャルグループとしてのベンチャー支援の現況と今後の展開についてご説明いただきました。

その後の会員の交流時間帯では、今回初参加となる、品川・レシップホールディングス 執行役員、山中・ラック 常務執行役員から自己紹介を頂きました。

続いて、和田・キューピー 取締役常務執行役員より11月の一志会特別例会のご説明を頂くとともに、会員からの近況報告として、椎名・KPMG コンサルティング 代表取締役副社長、梅田・住宅あんしん保証 代表取締役副社長、堆・宝印刷 代表取締役社長、伊藤・NTT 西日本 取締役、吉岡・アスクル 取締役よりそれぞれホットな報告をいただきました。

その後も、ゲストの木村氏を囲んでの交流が続き、大変にぎやかな雰囲気となりました。



レシップホールディングス
品川氏



ラック
山中氏



キューピー
和田氏



KPMG コンサルティング
椎名氏



住宅あんしん保証
梅田氏



宝印刷
堆氏



NTT 西日本
伊藤氏



アスクル
吉岡氏



交流の様子①



交流の様子②